

令和5年9月27日

保護者のみなさまへ

河内長野市立川上小学校
校長 池内 宏明

令和5年度 全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの結果について

仲秋の候、平素は本校教育のためにご支援ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

今年度4月に本校の6年生に実施しました全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの結果について、分析（成果と課題）及び取り組みをご報告させていただきます。

1. 学力調査の概要

(1) 国語について（全国学力・学習状況調査）

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府	全国
全体	66%	66%	67.2%
知識・技能	67.3%	68.6%	68.9%
思考・判断・表現	64.7%	63.5%	65.5%

【概要】平均正答率は、全国と比べてやや低いものの、大阪府と比べてほぼ等しい結果である。文章を読んで自分の考えをまとめて書く記述式の問題の正答率は低い。

〈特に成果が見られた問題〉

問題2(4)の資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書くところは、全国や大阪府をやや上回っている。問題3(3)の日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題は、全国や大阪府に比べ平均より10%程度上回っている。

〈特に課題が見られた問題〉

問題1(1)や問題2(3)の情報と情報との関係についてや語句と語句との関係の表し方について理解しているかなどの情報の扱い方に関する事項については、全国や大阪府に比べ平均より10%程度下回っている。問題1(2)の文章の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く問題では、全国に比べ8%ほど下回り、正答率も約18%と他の問題と比べると極めて低い。記述式の中でも、図表やグラフなどを用いて効果的に文中の言葉を選びながら自分の考えを書くことに課題があると考えられる。

(2) 算数について（全国学力・学習状況調査）

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府	全国
全体	63%	62%	62.5%
知識・技能	67.8%	67.1%	67.2%
思考・判断・表現	57.1%	55.7%	56.5%

【概要】平均正答率は、全国や大阪府全体の平均と比べると少し下回っている。領域別で見ると、A 数と計算、B 図形領域は、平均より正答率が高く、D データの活用領域は、平均より低いという結果となり、領域によって定着の度合いに偏りがある。

〈特に成果が見られた問題〉

問題1(4)の50×40の計算や問題3(3)の(151+49)×3の計算、分配法則など全国や大阪府に比べ平均より6%程度上回っている。問題2(1)の台形の意味や性質について問題4(1)の百分率で表された割合についてなど、基礎基本となる算数用語の意味や性質については、全国や大阪府より理解が定着している。問題3(2)の示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる問題では、毎年課題とされる記述式であるにもかかわらず得意の計算力を活かし、全国や大阪府に比べ上回ることができている。

〈特に課題が見られた問題〉

問題2(3)の伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述する問題や問題4(3)の示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを記述する問題では、数や式、言葉を使って文章化することに苦手を感じ、全国や大阪府に比べ大きく下回っている。問題4(2)「以上」の意味の理解や問題4(4)の二次元の表の読み取りなど、D データの活用領域での問題に苦戦している。

問題2(4)の高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、全国や大阪府を約14%上回るものの、正答率が約34%と低く、条件過多の中から必要な条件を選び抜く力をつけていく必要がある。

(3) 理科について（すくすくウォッチ）

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府
全体	74.5%	73.1%
知識・技能	75.9%	74.4%
思考・判断・表現	71.1%	69.9%

【概要】大阪府と比べて平均正答率は少し上回っている。領域別にみると、「地球」を柱とする領域では大阪府より3%程度上回っているが、「エネルギー」を柱とする領域では大阪府より若干、下回っている。

〈特に成果が見られた問題〉

問題2(1)の方位磁針の正しい使い方として、色のついた針のところを北に合わせることを理解して、正しい方位を答える問題では、正答率が大阪府より15%上回っている。問題2(2)の問題文にある月の観察カードから、問いの「月の見えた方位や高さ」の目印になるものを読み取る問題では、大阪府の正答率を上回るとともに90%を超える正答率である。方位磁針の使い方や月の観察の仕方について、よく理解できていると考えられる。

〈特に課題が見られた問題〉

問題1(1)の乾電池2個と豆電球1個からなる回路で、乾電池を直列つなぎにしたときと並列つなぎにしたときの豆電球の明るさの違いを理解する問題では、正答率が低く、大阪府の正答率と比べても下回っている。並列つなぎは直列つなぎよりも豆電球の明るさは暗いと答えられているが、並列つなぎという名前を正しく答えられていない児童が多い。

問題2(4)の観察カードより時間の経過から月の動きを考えて月の位置をかく問題では、大阪府の正答率を下回っている。形はどの時間も変わらず、時間が経過するにつれて東から南へ月が動いているが、情報から読み取ることができず、形を丸く高い位置に書けずにいる児童が多い。また、無回答率も高い。

(3)【わくわく問題（教科横断的問題）】について（すくすくウォッチ）

観点別	学校の平均正答率	大阪府の平均正答率
全体	76.0%	75.6%
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	84.2%	84.0%
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	63.8%	61.9%
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	80.3%	80.2%
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	72.4%	73.1%
E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	97.4%	91.7%

【概要】

全体の平均正答率は、大阪府のそれと比べほぼ差がない。観点別にみると、観点 B や E は大阪府の平均と比べ上回っているが、観点 D においては大阪府の平均正答率を下回るなど、観点によって正答率に差があった。

〈特に成果が見られた問題〉

問題 1(1)(2)は、児童にとって身近な「ソース」を題材とし、種々の資料を読み取り、それに基づいて思考する力を問う問題である。この問題で図や表、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえたりそれをもとに論理的に考えたりする力が大阪府のそれより大きく上回っている。

〈特に課題が見られた問題〉

問題 2(1)(3)は、ロボット掃除機の観察をきっかけとして、ロボットや AI に関連する諸技術やその活用に興味・関心を広げていく中で、論理的に思考し問題を発見・解決していく力を育むことを目的とした問題である。この問題で図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える、新たな課題を考える、自分の考えをまとめ、伝えるといった力が大阪府のそれより下回っている。特に、問題 2(3)は、多くの資料の中から、条件に沿って自分の考えを書くことを苦手と感じている。

(4)児童アンケートについて（全国学力・学習状況調査）

【概要】

基本的な生活習慣や学習など、どの項目においても比較的、肯定的な回答が多く、全国や大阪府と比べても肯定的な割合が高い結果である。

〈特に成果が見られたアンケート項目例〉

質問番号	質問事項	選択肢	A	B	C	D
(26)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	本校(%)	57.5	30.0	5.0	7.5
		大阪府(%)	31.3	41.5	19.0	8.1
		全国(%)	33.2	43.6	17.1	5.9
A=当てはまる B=どちらかといえば当てはまる C=どちらかといえば当てはまらない D=当てはまらない						

肯定的な回答(AとBを足したもの)が大阪府や全国と比べて高く、地域や社会に積極的に関わろうとする思いが強いことがわかる。今後も地域や社会についての学びの場を提供するとともにキャリア教育にも力を注ぎたい。

質問番号	質問事項	選択肢	A	B	C	D
(30)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	本校(%)	80.0	20.0	0.0	0.0
		大阪府(%)	64.7	29.0	4.0	2.1
		全国(%)	67.5	27.6	3.3	1.4
A=役に立つと思う B=どちらかといえば、役に立つと思う C=どちらかといえば、役に立たないと思う D=役に立たないと思う						

肯定的な回答が100%で、日々学習でタブレットを使うことに効果を感じていると言える。質問番号(29)「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の肯定的割合もかなり高く、昨年度、川上小はスマートスクール推進校としてICT教育に力を入れ、子どもたちがタブレットを活用する力がついたことも大きな要因である。

〈特に課題が見られたアンケート項目例〉

質問番号	質問事項	選択肢	A	B	C	D	E
(32)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	本校(%)	25.0	42.5	12.5	15.0	5.0
		大阪府(%)	25.3	37.4	23.5	10.6	3.1
		全国(%)	24.8	38.9	23.9	9.8	2.5
A=発表していた B=どちらかといえば、発表していた C=どちらかといえば、発表していなかった D=発表していなかった E=考えを発表する機会はなかった							

否定的な回答(C,D,Eを足したもの)が30%を超えている。授業の中で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫できたなど子どもたちが実感できるよう国語等で授業改善を行っていきたい。質問番号(43)「国語の勉強は好きですか」も否定的な回答が30%を超えているため、発表の工夫は学習意欲にも繋がる大切な要素である。

2. 調査結果を受けて

(1)学校が重点的に取り組んでいくこと

どの教科においても、基本的な語句・用語をきっちりとおさえ、確実な定着を目指す。複数の情報源から適切な情報を取捨選択して、それをもとに自分の考えを書く学習場面を国語、算数をはじめ様々な教科で設定していきたい。タブレットを用いて情報を集める際にも、適切な情報の選び方や引用の仕方、自分の考えの書き方なども丁寧に指導していく。また、発表する際に、相手に効果的に伝わるよう工夫する場面を取り入れ、そのような場面を多く取り入れることで自分の考えを書くことに抵抗がなくなるよう、根気強く指導を行っていききたい。

(2)児童のみなさんに取り組んでほしいこと

○調べ学習をするときは、自分のめあてに合った資料はどれか、たくさんの資料の中から見つけ出し、どの言葉を使ってまとめたらよいか、またそこから考えたことは何か、相手がより理解してくれるためにはどんな工夫したらよいかをよく考え取り組みましょう。
○大切な言葉はしっかりと覚えるようにしましょう。また、自分が苦手なところはどこかを見つけ、自分なりにノートにまとめたり、練習問題に取り組んだりするなど、粘り強く取り組みましょう。
○作文や振り返り、テストの答えなど、書き終わった後に読み返しましょう。読み返すときには、読む相手に自分の伝えたいことが本当に伝わるのか、間違った表現をしていないかなどを見直し、文章をよりいいもの書き直す習慣をつけましょう。

(3)保護者のみなさまに協力してほしいこと

今回の調査結果をお子さんと一緒にご覧になり、子どもたちを取り巻く課題を知っていただくことで、学校と保護者が同じ方向性を持つことができ、よりよい子どもたちの育ちにつながると考えています。また、子どもたちが健康で意欲的に学習活動や行事に取り組んでいけるよう、規則正しい生活習慣の維持を引き続きお願いします。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いします。